

海外農林業情報 No.49

ポスト MDGs としての持続的開発のための 2030 アジェンダ

わが国を含む国連加盟国は、国連サミットに参加し、「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」を採択しました。

同アジェンダは、その宣言、17 項目の開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)、それぞれの目標における合計 169 項目のターゲット等で構成されています。SDGs は、これまでの、2015 年を目標年次としたミレニアム開発目標 (MDGs) を改定したもので、17 項目の開発目標は以下のとおりです。

表 1 MDGs の開発目標 17 項目

目標1	あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ
目標2	飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する
目標3	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する
目標4	すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する
目標5	ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女兒のエンパワーメントを図る
目標6	すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する
目標7	すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する
目標8	すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する
目標9	レジリエントなインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの拡大を図る
目標10	国内および国家間の不平等を是正する
目標11	都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする
目標12	持続可能な消費と生産のパターンを確保する
目標13	気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る
目標14	海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する
目標15	陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る
目標16	持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する
目標17	持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

出典：国連広報センター「持続可能な開発サミット、9月25-27日にニューヨークの国連本部で開催へ（概要）」(http://www.unic.or.jp/news_press/info/15790/)

以上の17項目の目標の中で、MDGsの農業農村開発と直接関係するのは、目標1「あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ」と目標2「飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する」があり、MDGsが目標とした「半減」を「終止符を打つ」としています。

国連はそれぞれの目標についてファクトシートを公開しており、目標1と目標2については、以下のように現状を把握しています。

表2 目標1および2に関するファクトシート

目標1「あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ」
全世界で極度の貧困の中で暮らす人々の数は、1990年の19億人から半分以下に減少しました。しかし、今でも8億3600万人が極度の貧困に苦しんでいます。開発途上地域では、およそ5人に1人が一日1ドル25セント未満で生活しています。
南アジアとサハラ以南アフリカには、極度の貧困の中で暮らす人々の圧倒的多数が集中しています。
脆弱で紛争の影響を受ける小さな国々では、貧困率がしばしば高くなっています。
全世界で5歳未満の子どもの4人に1人が、年齢に見合う身長に達していません。
目標2「飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する」
開発途上地域全体で、栄養不良の人々の割合は1990-1992年の3%から2014-2016年の12.9%と、1990年以来ほぼ半減しています。しかし、今日も依然として、世界人口の9人に1人(7億9500万人)が依然として栄養不良に陥っています。
世界で飢餓に苦しむ人々の大多数が暮らす開発途上国では、栄養不良の人々の割合が人口の9%に達しています。
飢餓に陥っている人々が最も多いのはアジアで、全体の3分の2を占めています。南アジアの割合は近年、低下してきていますが、西アジアの割合は微増となっています。
飢餓率(人口全体に占める割合)が最も高い地域はサハラ以南アフリカで、およそ4人に1人が栄養不良に陥っています。
栄養不良が原因で死亡する5歳未満の子どもは年間310万人と、子どもの死者数のほぼ半数(45%)を占めています。
世界の子どもの4人に1人は、発育不全の状態にあります。開発途上国に限ると、この割合は3人に1人に上昇します。
開発途上国では、就学年齢の子ども6600万人が空腹のまま学校に通っていますが、アフリカだけでも、その数は2300万人に上ります。
世界で最も就業者が多い産業である農業は、現在の世界人口の40%に生計手段を提供しています。また、農村部の貧困世帯にとっては、農業が最大の所得源かつ雇用源となっています。
ほとんどが天水農業を営む全世界5億軒の小規模農家は、開発途上地域の大部分で消費される食料の80%程度を提供しています。小規模農家への投資は、最貧層の食料安全保障と栄養状態を改善し、国内・世界市場向けの食料生産を増大させる重要な手段です。

出典：国連広報センター「持続可能な開発のための2030アジェンダ採択 -- 持続可能な開発目標ファクトシート」(http://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounder/15775/)

さらに、それぞれの目標について合計169項目のターゲットのうち、目標2については8項目存在し、その内容は以下のとおりです。

目標2のターゲット

- ・2030年までに、飢餓を終了させ、全ての人々に対して1年を通じて安全で、栄養があり十分な食料のアクセスを保証する。
- ・2030年までに、あらゆる栄養失調を終了させる。
- ・2030年までに、小規模な食料生産者達の農業生産と収入を2倍にする。
- ・2030年までに、持続的な食料生産システムを保証し、栽培に強い農業を実践する。
- ・2020年までに、種子、栽培植物、飼育動物および関連する野生種の遺伝的多様性を維持

する。

- ・農村部のインフラ、農業研究および普及サービス、技術開発、植物および動物の遺伝子バンクに関わる投資を拡大する
- ・世界の農業マーケットにおける貿易制限や歪みを正常化し、防止する。
- ・極端な食料価格の不安定の制限を助けるため、食品市場が適切に機能するよう対策を講じる。

なお、今回の SDGs では環境問題が大きく取り入れられており、農林水産業との関係では、目標 12 から 15 で触れられています。このうち、目標 12 の中で「2030 年までに、世界の一人当たりの食料廃棄を半減させる」としているターゲットが注目されます。

文責：西野 俊一郎

＜参考リンク＞

持続可能な開発サミット、9 月 25-27 日にニューヨークの国連本部で開催へ（概要）（国連広報センター）

http://www.unic.or.jp/news_press/info/15790/

SDGs 開発目標特設サイト（The Global Goals for Sustainable Development、日本語）

<http://www.globalgoals.org/ja/>

本情報のメール配信をご希望の方は、件名に『海外農林業情報配信希望』と記入した空（から）メールを下記までお送り下さい。ご意見、ご感想もお待ちしております。E-mail アドレス：deskb@jaicaf.or.jp

メールを送付された方には、確認メールをお送りします。送信後 2 週間以内に届かない場合は、お手数ですが 03-5772-7880（担当：西野・森）までお電話下さいようお願い申し上げます。なお、メール配信をご希望の方には、本ミニ情報のほか、セミナーのご案内等、当協会からのお知らせが届くことがありますので、併せてご了承下さい。

発行：(公社)国際農林業協働協会(JAICAF)

〒107-0052 東京都港区赤坂 8 丁目 10-39 赤坂 KSA ビル 3 階

